

楫取素彦が支援した星野長太郎・ 新井領一郎兄弟の偉業（下）

NHK大河ドラマ「花燃ゆ」に登場する星野長太郎・新井領一郎兄弟は水沼村（現在の黒保根町水沼）出身です。前号に引き続き兄弟の偉業について紹介します。

蚕糸産業に意気投合した二人

明治の新政府は、蚕糸立国を目指し海外への販路開拓を国策の柱としました。

明治7（1874）年7月、熊谷県令として赴任し、群馬の大部分を統括していた楫取素彦も蚕糸産業の振興を県政の重要施策に据えていました。一方には、水沼村に製糸の近代化を図り、誇れる生糸を夢見ている星野長太郎がいました。

当時の日本生糸は、横浜でアメリカ系商人と取り引きされていましたが、品質は悪く規格も不ぞろいで、その上異物を混入して目方に不正を働くなどで不信を受けていました。



新井領一郎
（黒保根村誌より）

た。県政執行者の楫取と、生産者星野長太郎の思いは同じく、この悪評を絶ち信頼を回復するには優れた生糸を現地アメリカで取り引きするほか手段なしと考え、生糸を思う男二人はその機を待ったのでした。

生糸直輸出の決断

明治8（1875）年12月、楫取を訪れた青年がいました。佐藤百太郎という人物で「米国商法講習生」の推薦を依頼してきたのです。

百太郎の祖父は、順天堂の創立者泰然（佐倉藩藩医）で、父は、尚中といひ医学博士で東京大学に勤めた人です。

百太郎は、14歳で渡米し商社に勤務して商法の実習を積んでいました。

百太郎は「これからアメリカで商業を展開するには、その国の習慣を踏まえた商法の習得が不可欠だ。ここで有能な青年実業家を育てたい」と

講習生を勧誘したのでした。

楫取は、速水堅曹に相談し即座に長太郎の実弟、新井領一郎を指名したのでした。

「米国商法講習」は、日本生糸のアメリカ直輸出に結びつくことから、長太郎は快諾すると領一郎に渡米の決意を促しました。

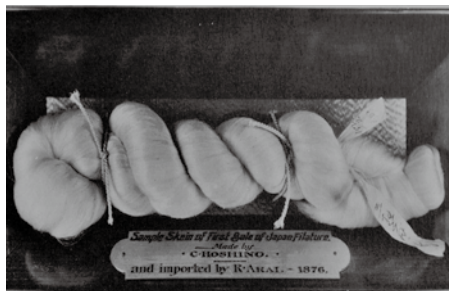
領一郎の渡米と吉田松陰形見の短刀

明治9（1876）年3月、国策を背負った領一郎は横浜港から旅立ちました。

領一郎の渡米にあたり、楫取の妻、寿（吉田松陰の妹）は、「兄松陰の遺志のためにも成功を祈ります」と言っても松陰形見の短刀を贈った話は、今にも伝わっていることです。

期待に応えた領一郎の事績

悪評高い日本生糸の商談は



直輸出第1号の生糸（黒保根村誌より）

困難を極め、苦境にあった領一郎を救った人がリチャードソンという糸商人でした。

重さ1ポンドにつき6ドルで400ポンドの契約が成立したのでした。しかし、1か月後の商品を渡すときには相場が10ドルに高騰したので、日本からはその値で渡すよう指示されましたが、領一郎はそれに応じず契約通り履行したのでした。リチャードソンは、その誠実さをたたえ、協力を誓ったそうです。

この商業道徳が起因となり信用回復の道が開け、その後アメリカ絹業界で重要ポストに就くまでになったのです。国策や楫取素彦の期待に添い遂げた星野長太郎・新井領一郎兄弟の偉業は、ドラマ「花燃ゆ」の一場面を飾るものであると思います。

（元黒保根村教育委員会教育長・川池三男）

大河ドラマ
花燃ゆ

12月13日（日）最終回
NHK<総合>日曜日20:00~
<BSプレミアム>日曜日18:00~
再放送<総合>土曜日13:05~

「住宅取得応援補助金」申請受付中

最大200万円補助！



桐生市内に住宅を建築・購入すると住宅取得費の一部を補助します。

申請には条件が有りますので、パンフレットを御確認ください。パンフレットは、市ホームページ又は市役所4階の建築住宅課、新里・黒保根支所などに有ります。

問い合わせは、建築住宅課住宅係（☎内線633）へ。

